

平成25年度 第2回学校評議員会の実施報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校長 原 武志

学校住所 美濃加茂市牧野2007-1 電話 0574-28-3150

- 1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校学校評議員会
- 2 会議の構成
委員 板津 幹彦 東和組立株式会社 代表取締役
小川 たか子 美濃加茂市商工会女性会理事（欠席）
井上 さよ子 可児市養護訓練センター（くれよん）所長
渡辺 厚 下米田地区自治会
渡辺 俊幸 美濃加茂市文化団体連盟 会長

学 校 吉田 和歌子 P T A会長
原 武志 校長
有賀 容子 事務長
山下 雅樹 教頭
浅野忠一郎 小学部主事
伊藤 芳博 中学部主事
本田 裕 高等部主事
平野 俊之 教務主任
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。
- 4 会議の開催 平成26年2月25日（火）13：00～15：00
可茂特別支援学校集会室
出席者： 委員4名 学校側8名
- 5 会議の概要 (1) 学校長挨拶
(2) アンケート結果について
(3) 各学部からの活動報告
(4) 「全校掃除」の参観
(5) 各分掌の活動報告
・ 防災環境部
・ 地域支援センター
・ 研究情報部
(6) 評議員からの提言
- 6 会議録
○学校評議員よりのご意見(提言)
意見1
療育施設を代表して心よりお礼を申し上げます。遠くの特別支援学校へ行くしかなかった頃と比べると支援学校が近くにできたことで保護者の中から「支援学校へ行きたい」とい

う言葉が聞かれるようになった。これも信頼を積み重ねてきた結果であり、進学する一人一人の保護者の気持をしっかりと受け止めて日々実践されているからだと思う。支援センターについては検査スキルや（子どもの実態についての）見立てなどたいへんお世話になっており感謝している。

意見2

法改正があり日中一時や放課後ディサービスを実施する施設がたくさんできた、下校の時などごった返してたいへんなのではないかと思う。可児市にもどんどんできている。これから保護者に加え事業所（放課後ディサービスや日中一時サービス提供者）との連携が重要な課題となってくるのではないか。

意見3

防災教育についてはすばらしい取組で驚いた、先日も大雪で高崎の知人が家から一步も出ることができなかった。（いつ何時どんな災害が発生するか分からない今）きちんと前向きに考えられていてすばらしい。

関で起こった事故のこともあり雨のことはとても心配である。（学校待機訓練のような）下校をやめさせる判断は安全確保という点からとても大切である。テレビの報道（防災教育）を通じて学校の（防災教育活動への取組）様子が地域の人に理解されて良かった。今後も学校の（様々な情報を知ってもらう）広報について地域の回覧を活用するなど積極的にアピールをして欲しい。

意見4

居住地校交流（居住地における交流）はもっとやっていただきたい。小学部など保護者の考え方に開きがあるようではあるが、（居住地校が）受け手側としてももっと理解してできると良いと思う。とても重要なことだと思う。

意見5

生徒のレベルがずいぶん上がってきていると感じている。会社でも他の特別支援学校からの学生と（一緒に課題に取り組ませると）高い目標を目指し互いに競い合っている。で地域の企業が（障がい者の雇用についての）ノウハウについて学んでもらうようになると良い。

また、現場実習等の受入に至るまでには相当の苦勞、学校側の努力があり、また子ども自身の力（具体的に身についた）であると思う。（そうしてできた）地域との結びつきは学校の宝だと思う。いろいろな企業に結びつきが広がることで（障がい者を雇うことで特になることも分かり）本当に障がい者を理解していただくことになる。

学校長

アンケートの結果が1年目、2年目、3年目と順調に評価が良い方向に伸びてきている。これも子どもを知っていただき、見ていただき、関心を寄せていただいているから良い結果になっていると思う。来年度は原点に戻ってゼロベースで取り組むつもりである。評議員の方は本校の広報マンであり、引き続き応援団としてご尽力をお願いしたい。

7 会議のまとめ

防災教育の推進にご理解をいただき、地域に根ざす学校として本校の教育活動全体に対して貴重な意見を伺うことができた。